

実践報告 6

英語表現Ⅱにおける表現力の育成と評価

ープレゼンテーションによる発信ー

愛知県立横須賀高等学校 教諭 小島 裕美

1 実践のねらい

本校は各学年8学級をもつ全日制普通科の高校である。「質実剛健」「親切奉仕」「勤勉努力」の校訓のもと、勉学に励み、心身を鍛え、人格を陶冶し、国家・社会の発展に寄与する有為な青年の育成を目指している。ほぼ全ての生徒が4年制大学への進学を志望し、その半数以上は国公立大学進学を目指している。

(1) 生徒の学びの現状

向上心のある生徒が多い。教師の指示に素直に従って活動をするが、英語に対しては受動的で、表現力も不足している。英語で発信する場面を増やし、より積極的な英語学習への態度を育成していく必要がある。

(2) 指導と評価における課題

授業では、できる限り言語活動を取り入れているが、自分の意見を発信することはできても、意見交換までには至らず、一方的な活動になることが多い。生徒の言語活動に対する適切なフィードバックと、明確な評価規準を設定していくことが必要である。

(3) 身に付けさせたい力

今後、コミュニケーション能力がよりいっそう求められていく中で、本校はまだまだ英語に対して受動的な生徒が多い。学習したことを理解するだけではなく、それを使って表現していく積極性を身に付けさせていきたい。

本実践では、特に発表に焦点を当て、生徒が英語で発信していく力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

教科書のモデル文を参考に、行ってみたい場所についてペアで話をさせる。その際、有名な国内外の世界遺産の写真などを提示することで、より円滑な会話が行える環境を整える。その後、ワークシートを用いて発表用原稿を書かせ、最後にプレゼンテーションを行わせる。一人1分程度のプレゼンテーションを4～5人のグループ内で練習し、その後、生徒それぞれが全体の場でプレゼンテーションを行う。

イ ワークシートの工夫

日本や外国で行ってみたい場所について、何を書くべきかの内容を示した。また、発表する際に評価の観点となる項目を明示した【巻末資料1】。

(2) 評価計画

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、授業中のペア・ワークやグループ・ワークにおいて評価する。また、「日本や外国で行ってみたい場所を一つ挙げ、プレゼンテーションすることができる」（外国語表現の能力）、「行ってみたい日本や外国の場所についての発表用原稿を作成することができる」（外国語表現の能力）、及び「相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価することができる」（外国語理解の能力）の3点について、ルーブリックに基づき、プレゼンテーションにおいて評価する。

一人1分程度のプレゼンテーションを4～5人のグループ内で練習し、その後生徒それぞれが全体の場でプレゼンテーションを行う。

【資料1 プレゼンテーションのルーブリック(外国語表現の能力)】

| 評価規準 | 項目 | 採点基準：()内は点数 | score | total |
|---|-------------|---|-------|-------|
| 日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。 | Voice | A(2) 大きな声で、明確に話している。 B(1) 声が小さく、聴き取れない。 | /2 | /8 |
| | Speed | A(2) 聴き取りやすい、適切な速さである。 B(1) 速すぎて(遅すぎて)、聴き取りにくい部分がある。 | /2 | |
| | Posture | A(2) 姿勢よく立って話している。 B(1) 姿勢がよくない。 | /2 | |
| | Eye contact | A(2) 観客を見て話している。 B(1) 下を向いて話している。 | /2 | |

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

Vision Quest English Expression II (啓林館)

Lesson 14 ローマの魅力

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

自分が行ってみたい場所について、英語で原稿を書き、プレゼンテーションを行うことができる。

【言語活動】

日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、その理由も含めた文章を書き、プレゼンテーションを行う。

ウ 単元のCAN-DO (4技能ごとの学習到達目標の設定)

| 話すこと | | 書くこと | | 聞くこと | | 読むこと | |
|--|----------------------|---|--------------|-------------------------------------|------------------|--------------|------|
| 学習到達目標 | 評価方法 | 学習到達目標 | 評価方法 | 学習到達目標 | 評価方法 | 学習到達目標 | 評価方法 |
| ・日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。 | ・活動の観察 ・プレゼンテーション | ・行ってみたい日本や外国の場所についての、発表用の原稿を作成することができる。 | ・エッセイ・ライティング | ・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。 | ・評価シート ・活動の観察 | (本単元では設定しない) | |

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

| | | | | |
|--------|---|--|------------------------------------|----------------------|
| 評価の観点 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| 評価規準 | ①ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けている。 ②大きな声ではっきりと話す。 | ①日本や外国で行ってみたい場所の一つを取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。 ②行ってみたい日本や外国の場所についての、発表用の原稿を作成することができる。 | ①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価することができる。 | ①形容詞の基本的な使い方を理解している。 |
| 内容のまとめ | ①話すこと | ①話すこと ②書くこと | ①聞くこと | ①書くこと ②話すこと |
| 評価方法 | ①活動の観察 | ①活動の観察 パフォーマンステスト（プレゼンテーション） ②エッセイ・ライティング | ①評価シート 活動の観察 | ①定期テスト ②ワークシート |

オ 指導と評価の計画

| 時間 | ねらい，学習活動，指導上の留意点 | 評価の観点 | 評価方法 |
|----|--|---|--|
| 1 | <p>[ねらい] 行ってみたい場所について，互いに話し合う。名詞の修飾の仕方の基本的な表現を学習する。</p> <p>[学習活動] 1 教科書に掲載されている Model Conversation をペアで読み合い，ローマのコロッセオについての内容理解をする。 2 黒板に貼ったその他の世界遺産の写真を参考にしながら，行ってみたいと思うかなどペアで話し合う。 3 名詞の修飾表現がどのように使用されているか確認する。</p> <p>[指導上の留意点] ・活動1では，分からない単語を調べることはさせず，話の流れで，内容を判断させるように促す。 ・活動2では世界遺産の写真を黒板に貼ることで，会話を円滑に行えるような雰囲気をつくる。また，多少の間違いは気にせず，会話を行えるようにする。 ・活動3では，詳しい文法事項の説明は避け，使用場面を意識させる。</p> | <p>表現，理解</p> <p>表現，関・意・態</p> <p>知・理</p> | <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p> <p>定期テスト（後日）</p> |

| | | | |
|---|---|---------------|----------------------|
| 2 | <p>[ねらい]</p> <p>行ってみたい国内外の場所についての発表用の原稿を作成する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「行ってみたい国内外の場所とその理由」について60語程度で書く。 2 ペアで読み合って、添削をする。 3 プレゼンテーション用の原稿に仕上げる。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1では、行きたい場所を列挙するような単調な文章にならないよう生徒に指導する。 ・活動2では、気付いた箇所は積極的に指摘するよう促す。 ・活動3では、プレゼンテーションの原稿の書き方を提示する。 | 表現, 関・意・態 | エッセイ・ライティング 活動の観察 |
| 3 | <p>[ねらい]</p> <p>自分が行ってみたい場所について、作成した原稿を基に効果的に聴衆に話すことができる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プレゼンテーションを行う際の諸注意を聞く。 2 プレゼンテーションを行う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1では、プレゼンテーションにおいて注意すべき点を示す。 ・活動2では、プレゼンテーションが円滑に行える雰囲気づくりを行う。また、評価シートの記入をする時間を取り、生徒同士でもフィードバックし合えるようにする。 | 表現, 関・意・態, 理解 | 活動の観察 評価シート |

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

ア ペア・ワークを中心とした活動

最初の授業でモデル文を読み、ローマに行きたくなくなったかどうかをペアで話し合わせた。モデル文を更に興味深い文章にするために何が必要かを話し合わせた。

次に、行ってみたい国内外の場所についてエッセイ・ライティングをしたのち、ペアで読み合って、添削をし、ペアを替えて発表をし合った。ほとんどの生徒は、終始、活発に活動を行っていた。

イ グループ・ワークを中心とした活動

まずは、1分間のプレゼンテーションを5人一組のグループで練習した。発表の機会が少ないため、最初は原稿を読みながら恥ずかしそうに発表する生徒もいたが、練習を重ねることでよくなった。全体

の場では多くの生徒が自分の気持ちを伝えようと一生懸命発表していた。聴く態度もよく、よい雰囲気の中で発表ができた。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

単元の終わりに、プレゼンテーションを行った。評価の際にはルーブリックを用いた【資料1】。

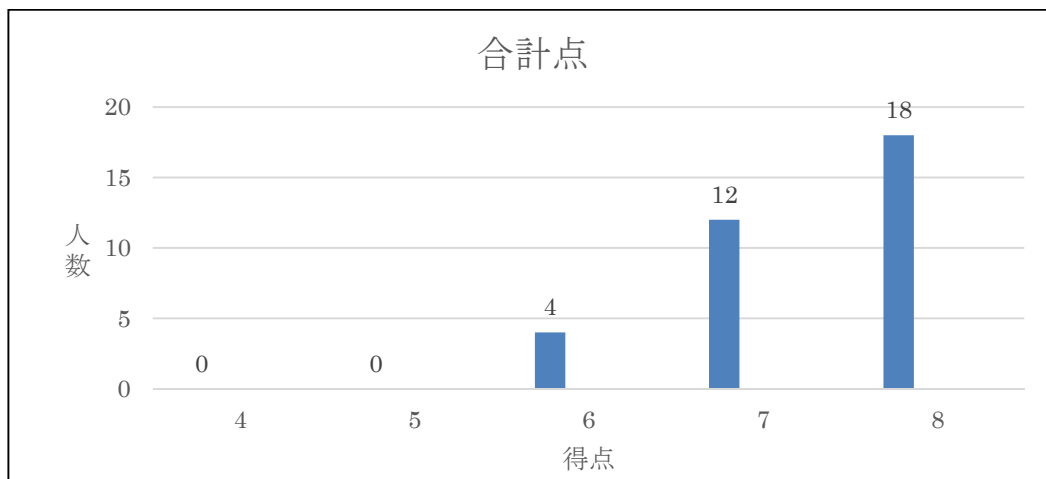


【グループ・ワークの様子】

イ 評価結果とその分布

以下に評価の分布を示す【資料2】。Voice, Posture, Speed においては、多くの生徒が評価2であった。一方で、Eye contact の部分で評価1となった生徒が何名かいた。理由としては、発表に慣れていないこともあり、うつむいて発表してしまったことが要因と考えられる。

【資料2 評価結果】



平均 7.4 点

ウ 生徒へのフィードバック

生徒一人一人にあらかじめ全員分の Evaluation Sheet を渡し、それぞれのプレゼンテーションを評価させた。全てのプレゼンテーションが終わった後、全員分を回収し、発表者に渡した。教員から個々の生徒へのフィードバックは行わなかったが、終了後に全体に対して、声の大きさがよかったということと、一方でアイコンタクトがもっと必要であることなどを講評した。

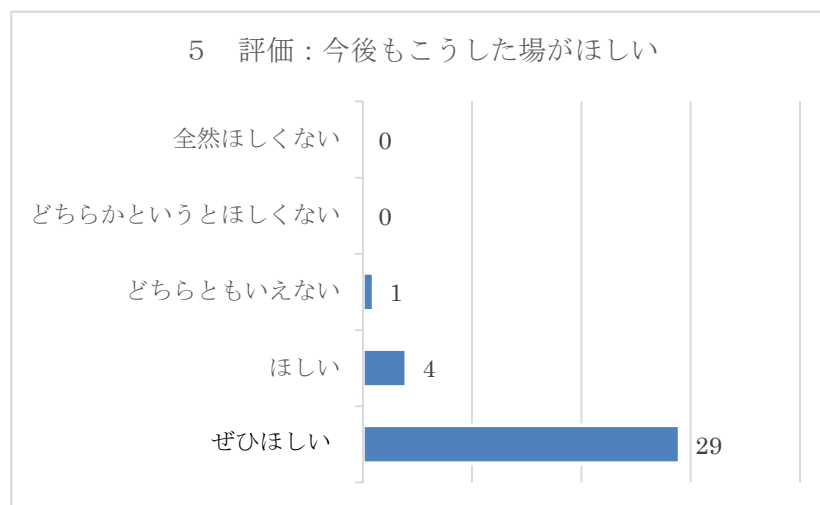
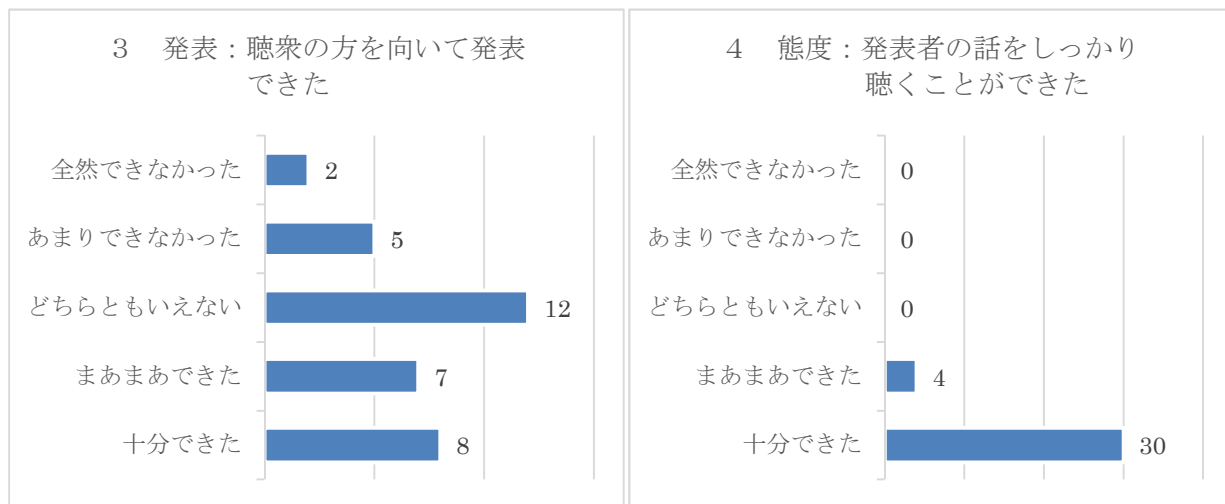
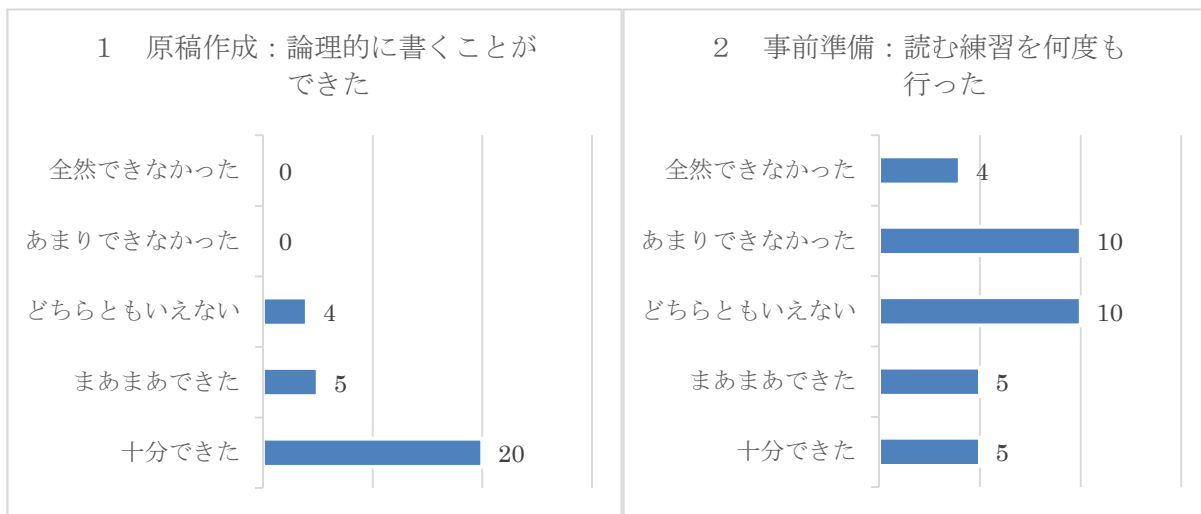
(3) 事後アンケート

アンケートはプレゼンテーションを行ったクラス 34 名を対象に行った。項目は以下のとおりとし、回答は全て 5 段階評価とした（「全然できなかった」～「十分できた」）【巻末資料2】。

- 1 原稿作成：論理的に書くことができた。
- 2 事前準備：読む練習を何度も行った。
- 3 発表：聴衆の方を向いて発表できた。
- 4 態度：発表者の話をしっかり聴くことができた。
- 5 評価：今後もこうした発表の場がほしい。

回答の分布は以下に示す【資料3】。

【資料3 アンケート結果】



項目1，4では、「十分できた」「まあまあできた」という回答がほぼ全員から得られた。一方で，項目2，3では、「あまりできなかった」「全然できなかった」が3割程度をしめた。家での練習をいかに

やる気にさせるかが課題である。また、項目5では、8割近くの生徒が「ぜひほしい」との回答であったのはよい傾向である。発表は恥ずかしい面もある一方、こうした活動が今後大切だということを生徒自身が分かっているようであった。

(4) 考察

ア ねらいの達成状況

プレゼンテーションを目標に、単元構想を基にして、導入から原稿作成へつながりをもって授業を行うことができた。プレゼンテーションを行うというゴールが明確であったので、いつものエッセイ・ライティングよりも聴衆を意識し、興味深いものに仕上がったように思う。聴く態度も良好であり、この活動を行うことで生徒が積極的に取り組むようになってきたと感じられたので、当初のねらいはおおむね達成できた。

イ 指導の手順について

1時間目に、モデル文を参考にして、自分の行きたい国内外の場所を具体的に考えさせたことが、その後の原稿作成をスムーズにしたように思う。一人一人が書き方を工夫し、興味ある内容となったので、モデル文が最も理想的な文章というわけでもないという学びもあった。

2時間目にペアで添削を行う時間を設けたが、添削の仕方が曖昧であったため、添削の基準を明確に指示する必要があった。

ウ 評価方法について

評価はルーブリックに基づいて、生徒と教員双方で行った。発表の評価規準は明確ではあったが、しっかり練習してきた生徒の評価とそうでない生徒の評価にあまり差が表れない結果となってしまった。その結果、ほとんどの生徒が高得点であった。生徒の意欲をよりよく反映させるため、今後は、採点項目や採点基準の見直しが必要であると感じた。

4 成果と課題

本実践を通して、プレゼンテーションが生徒たちの英語に対する意識を変えるきっかけとなったことを実感できた。それと同時に、評価の問題点も浮き彫りとなった。一つには、採点基準がある。今回はABの2段階基準であったが、ABCの3段階の基準であれば、準備をしっかりとってきた生徒たちによりよい評価ができるので、基準を精査していきたい。

次に、その評価と成績との相関関係も考えていく必要がある。今回は英語学習に意欲的な習熟度別の上位クラスで実践した。そのため、実際の成績に反映されないとしても生徒たちは大変前向きにプレゼンテーションに取り組んだ。実際、生徒たちのプレゼンテーション実施後のアンケートにも、「発表は恥ずかしかったが、楽しかった」「準備は大変だが、これから必要な力なので今後も挑戦したい」などの肯定的な意見が多かった。こうした、生徒たちの意欲を生かして、プレゼンテーションの質を高めていくには、学年の英語科、さらには英語科全体で連携を取っていく必要がある。

今回のようなプレゼンテーションは、毎回の授業で行えるものではない。しかし、継続して行っていかなければ、生徒の発信力の向上に結び付かない。決して、単なるイベントで終わってしまわないように、年間指導計画に組み込みながら、年度当初から計画していかなければならない。

【巻末資料 1】 Lesson 14 提出用シート

Write about a site you want to visit in Japan / a foreign country. In your paragraph, include the three points shown below. Try to use about 60 words for the paragraph.

1. the site
2. when and with whom
3. the reasons for your answer to 1 and 2

Evaluation Sheet

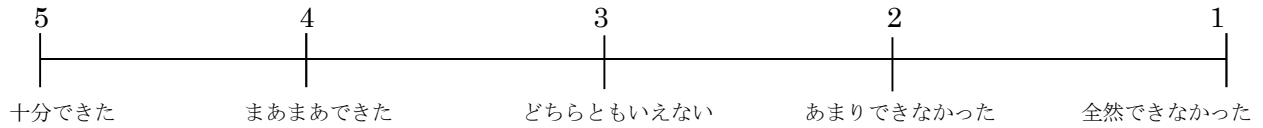
Presenter: _____ **Place :** _____

| | | |
|-------------|----------------------|------------------------------|
| Voice | (2) 大きな声で、明確に話している | (1) 声が小さく、聞き取れない |
| Speed | (2) 聞き取りやすく、適切な速さである | (1) 速すぎて (遅すぎて)、聞き取りにくい部分がある |
| Posture | (2) 姿勢がよく立って話している | (1) 姿勢がよくない |
| Eye contact | (2) 観客を見て話している | (1) 下を向いて話している |

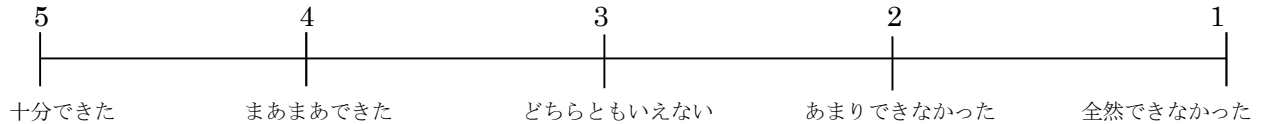
Total _____

【巻末資料2】プレゼンテーション 実施後アンケート

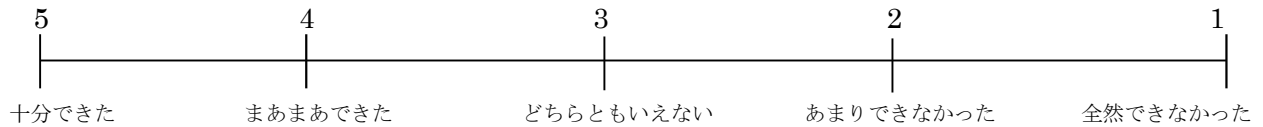
1 原稿作成：論理的に書くことができた。



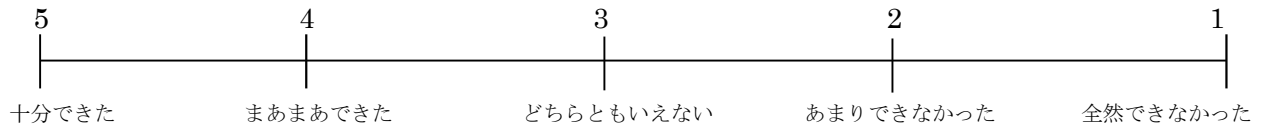
2 事前準備：読む練習を何度も行った。



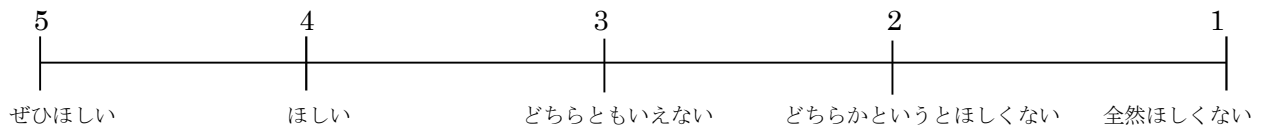
3 発表：聴衆の方を向いて発表できた。



4 態度：発表者の話をしっかり聴くことができた。



5 評価：今後もこうした発表の場がほしい。



6 その他：発表をしてみてどう思いましたか。